



**北九州市若松区南海岸通りにおける歴史的建築物の
保存・再生を通したまちづくりの展開に向けた調査**

～ 若松南海岸通りの新しい風景 ～

報 告 書

平成17年 3月

特定非営利活動法人 北九州COSMOSクラブ

目 次

1 . 活動の背景 -----	1
2 . 活動の経緯と目的 -----	2
2 - 1 これまでの経緯 -----	2
2 - 2 活動の目的 -----	2
3 . 活動の内容 -----	3
3 - 1 活動の経緯 -----	3
3 - 2 今年度の活動の内容 -----	4
a . 景観法勉強会 -----	5
b . 上野海運ビル調査・図面化 -----	6
c . まちの宝物探訪ラリー -----	9
d . テーブル会議開催 -----	12
d - 1 . テーブル会議 -----	12
d - 2 . 旧麻生鉱業ビル活用案 -----	13
d - 3 . 若松南海岸地区案内看板 -----	14
4 . 活動の成果 -----	15
5 . 今後の展開 -----	16
6 . 活動のポイント -----	17

1. 活動の背景

北九州地区は明治維新以降、昭和40年代まで石炭産業で隆盛を極めていた。三井・住友・三菱など中央の大資本や地元の麻生・貝島などの地元の資本が一気に石炭産業に集中し、筑豊炭田は大小多くの炭鉱が採掘を始めるにともない石炭の輸送や販売も活発におこなわれるようになった。筑豊炭田は我国の石炭の約半数を産出するようになり、若松港には筑豊炭の半数が送られ石炭積出港として日本一になった。

また明治30年代に石炭産地に近く、原料・製品の輸送に便利な洞海湾沿いに官営八幡製鉄所が建設され、北九州が日本の四大工業地帯の1つとして大発展をする基となった。

若松には石炭景気を当て込んで各地からたくさんの労働者が集まり、街の様子も活気あふれるものとなった。この当時の活気のもとには労働者によるものであり、彼等は決して裕福な暮らしをしていたわけではないが、若松の経済を支える大きな力であった。

しかし昭和40年代に入ると石炭から石油へエネルギー源が移行し、石炭で栄えた若松は衰退の一路をたどることになる。繁栄を極めた当時の建造物や利用価値のないものは次々と廃止され壊され、現在では繁栄した当時の面影を伝えるものはほとんどなくなった。

しかし若松の住民は「繁栄の歴史を残さねばならない」、「子供達に語り継がねばならない」と強く感じている。

石炭の積出港としての繁栄の歴史が、この町のアイデンティティである。

若松南海岸通りには石炭の積出港として繁栄した時代の近代建築物がまとまって現存しているが、これらの建築群も老朽化や機能的な遅れ等で今やその存続が危ぶまれている。

昨年、その中でも代表的な近代建築物である旧古河鉱業ビルは、住民の熱意と強い支持により保存が決まり改修され市民ホールとしてリニューアルオープンされた。

北九州COSMOSクラブでは、地元住民の方々と協働で洞海湾から望む近代建築の建ち並ぶ景観、繁栄した当時の構築物、近代建築の特色ある内部の装飾等、これらを活かしたまちづくりが出来ないか模索している。

大正時代の南海岸通り



2．活動の経緯と目的

2 - 1 これまでの経緯

若松洞海湾沿いの南海岸地区には、石炭景気に沸いた時代の建築物や構築物が数多く残されている。これらは残そうとして残った訳ではなく、燃料革命により石炭産業が衰退に至り、その後取り壊す元気も無くそのままの状態でも使用されている。これらの建築群は、若松南海岸通りのまちなみを形成するものであり、歴史を語る近代建築群として重要な建物であるが、かなり傷みもすすみ存続が危ぶまれている。

私たち「特定非営利活動法人 北九州 COSMOS クラブ」では、2000 年よりこの文化遺産の保存活動や、調査・研究その建物の図面化・パネル展示などを行って歴史的建築物の存続する意義や価値を、地元へアピールしてきた。地元市民団体との交流をとおして、2003 年には、歴史調査・地区現況模型の作成・地元住民へのアンケート調査、交通量調査を実施、テーブル会議などを行った。

その結果をふまえ今年度は「南海岸通りの新しい風景」をテーマに活動を行った。

高所作業車を使っての上野ビル調査・作図・パネル展示、また南海岸通り以外にも路地に残る建築物・構築物に着目し、再発見する為に「まちの宝物探訪ラリー」を行う。

昨年多くの署名と募金を集め保存が決まりリニューアルオープンした「旧古河鋳業ビル」に隣接する「旧麻生鋳業ビル」の売却が決定し、これを受けて、私たち COSMOS クラブは、「南海岸通りの新しい風景」の一環として旧麻生鋳業ビルの活用案を提案、若松南海岸通りの歴史的建築物の存続意義や活用方法などについて、地区住民の方と意見交換会（テーブル会議）を行った。

若松南海岸通りは市の景観条例で都市景観整備地区に指定されており、街路や海岸線の公共施設については、市による景観整備が行われている。このことから昨年制定された景観法に定める景観計画や、景観協定を利用して、若松の歴史を生かしたまちづくりを実践して行くきっかけづくりを行う。

2 - 2 活動の目的

今回の活動は、以下のことを考えている。

若松南海岸通りに現存する近代建築物や構築物を次世代へと継承し、この地区の住民に対し愛着や誇りを深めていただく。

平成 12 年に調査、図面化を行った「旧麻生鋳業ビル」の活用方法を今までのアンケート調査、テーブル会議などから得た地元住民の意見をふまえて考察し提案する。

将来住民と NPO が中心となってまち並みを考え、提案をしていける「(仮称)まち並みを考える協議会」の発足にむけ取り組みのきっかけを作る。

テーブル会議の開催により参加者との意見交換をし、ここに残っている近代建築群を活用しながら、『人が行き交うにぎわいのあるまちづくり』を行うきっかけを探る。

3. 活動の内容

3-1 活動の経緯

COSMOSクラブが現在までに行った、まちづくりに関する活動を以下に示す。

	活動内容	期 間	備 考
1	マップづくり	2000.3～2000.6	
2	建物調査・図面化	2000.8～2000.11・… 2001.12～2001.4・… 2003.2～2003.8・…	旧麻生鉱業ビル 石炭会館 大正ビル
3	模型づくり	2003.11～2004.2	
4	通行量調査	2003.12～2004.1	
5	住民意識調査	2003.12～2004.1	
6	歴史調査	2003.12～2004.1	
7	地元まちづくりグループとのかかわり	1998.10～	
8	展示会開催	2004.2.19～2.28 2004.3.6	
9	第1回テーブル会議開催	2004.3.6	
a	景観法勉強会	2005.1.15	
b	建物調査・図面化	2005.2.5～2005.3.4	上野海運ビル
c	まちの宝物探訪ラリー	2005.3.5	若松南海岸通り散策 MAP
d	第2回テーブル会議開催	2005.3.5	旧麻生鉱業ビル活用提案 若松南海岸地区案内看板

調査範囲



3 - 2 今年度の活動の内容

昨年私たち COSMOS クラブでは、いろいろな活動を行っていく中で、以下のような事が必要であるということをもとめ、提案した。

昨年の提案

これまでの調査からの提案

- ・回遊性
(ミニ観光 渡し場を中心とした海、近代建築散歩)
- ・近代建築マップ づくり
(案内板の作成、見学コース)
- ・昔ながらのたたずまいを残す街道の形成
(親しみのある商店等)
- ・大正ビル跡地利用
(大正ロマンストラフ 等)
- ・渡船、市営バスの一体的利用
(共通乗車券 等)

これら去年の提案を踏まえて、今年は更に街並みへの関心を高め、近代建築の調査活動を行うなど、以下の活動を行った。

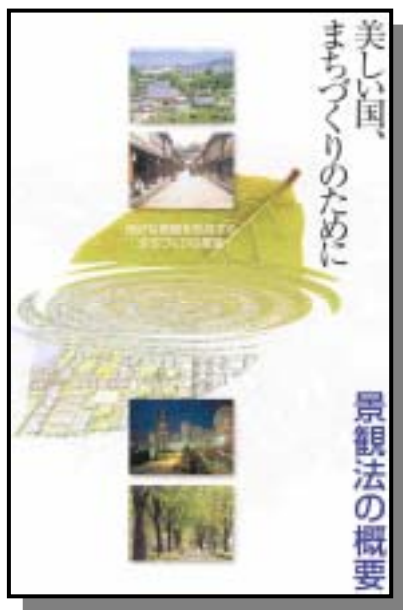
南海岸通りの新しい風景

…近代建築群の生きづまちなち…

□ 今年の活動

景観法の勉強会
上野ビルの建物調査
まちの宝物探訪ラリー
テーブル会議の開催

a . 景観法勉強会 2005.1.15



昨年の6月に国土交通省で、景観法が公布、12月に一部施行され、運用の指針が出された。まず景観法を知ろうということで、このリーフレットをもとに1月15日北九州市都市美デザイン室の、松尾係長に講師をしていただき、景観法の勉強会を行った。現在、この南海岸通りは、北九州市景観整備地区に指定されている。しかし、この制度も拘束力はゆるやかである。

b . 上野海運ビル調査・図面化 2005.2.5・6～2005.3.4

2/5.6の土日 二日にわたって調査を行った。各班に分かれ、又高所作業車をリースして、かなり大係りなものだった。今回、建物を利用されているテナントの部屋は、調査することが出来なかったが、玄関、階段、吹き抜け部分と主な部屋は調査をさせていただくことが出来た。

上野海運ビル調査・作図工程

- 2005/12/21 事前調査・打合
- 2005/ 1/26 "
- 2005/ 2/5・6 第一回旧上野海運ビル実測調査
時間：9：30～17：00
参加人数：20人（延べ人数）
- 2005/ 2/6 作図開始
- 2005/ 3/5 図面完成

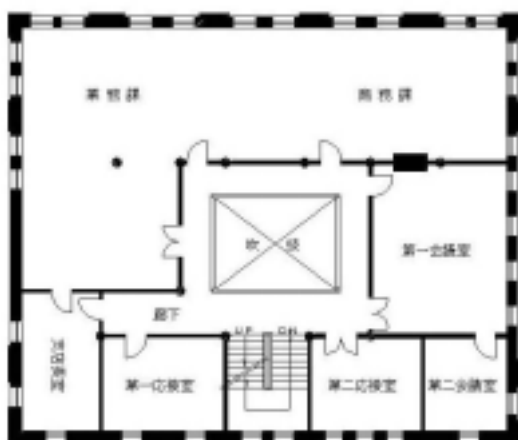


上野海運ビル作図・パネル作成

【 平面図 】

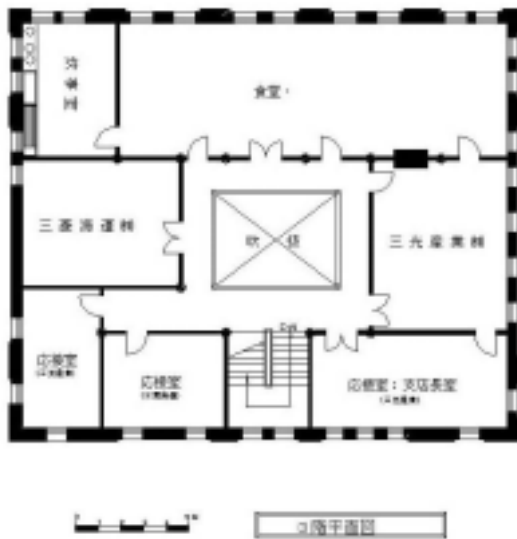
1階平面図

上部（南側）のタイプ室部分は竣工当時のものではなく後に増築されたものである。
ホールから総務室へのドアは他のドアとは違った独特の意匠が施されている。



2階平面図

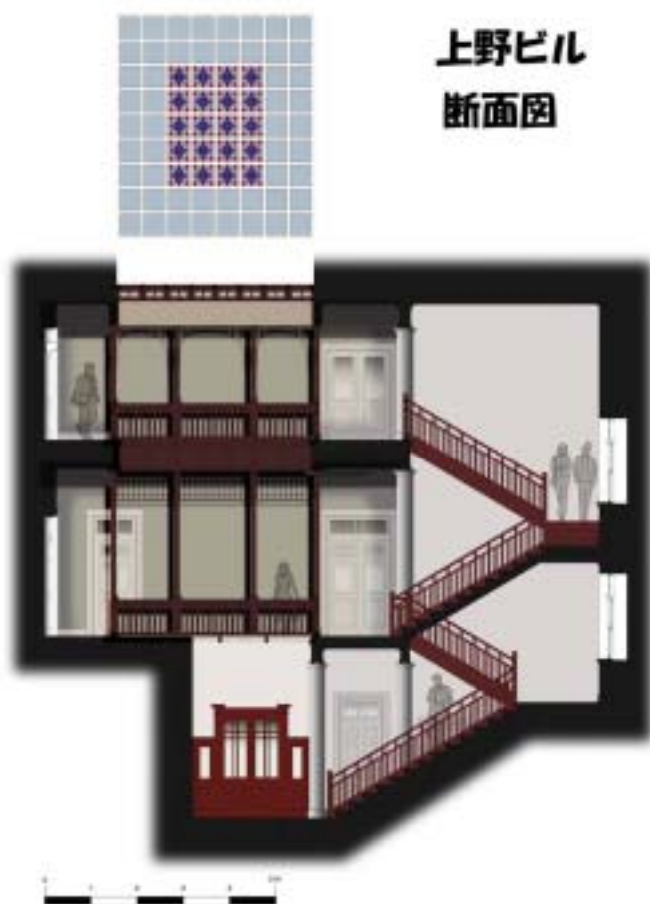
吹き抜面に面する回廊から各室に入るプランとなっている。



【 立面図 】



1階中央部は増築部分であり、「上野海運」の看板が架かるパラペット部分は、竣工当時アーチ状の柱頭部と鉄製の手摺で飾られていた。外観は基本的に対称性を持っているが、竣工時右端には塔屋があった。



【断面図】

竣工当時そのままの吹抜は天井のステンドグラスから採光する。また吹抜に面する2階、3階の手摺は木製であるが、その上部の欄間部分に注目したい。鋳物ではなく細い鉄材を加工しており、軽快なデザインとなっている。

c. まちの宝物探訪ラリー 2005.3.5



上野海運における調査結果を踏まえ、また麻生ビル売却との情報を得た上で、まちづくり支援事業のひとつとして、このマップを片手に探訪ラリーを行った。

普段何気なくそばを通り過ぎていても、このような価値や歴史が詰まっていることを、再度認識して地元の方に誇りを持ってほしいということで、「まちの宝物探訪ラリー」を行った。

そこで再発見されたものは、歴史資料館にあってもおかしくないような品々がいくつも点在している文化豊かな街である。



左・ウォークラリー&テーブル会議チラシ

◆ まちの宝物探訪ラリー 風景



寒風の拭く中、案内人（市原）の説明を聞きながら散策



上野ビルの吹き向け部分、手摺やステンドガラスの装飾のすばらしさに感動



◆ ウォークラリー・シールの作成

ラリーで回る幾つかの建物のイラストをシールにし、チェックポイントごとに台紙に貼っていくようにした。シールラリーという形ではなかったのだが、記念に全ての建物のシールを欲しいと言う人もいた。

今回子供への呼びかけができなかったが、子供の参加者がいる場合、シールを集めるという事を楽しみながら、若松南海岸のメイン通り以外にも興味深い建物が残っているということを手自然に意識づける事ができるのではないかと考えての発案だった。



d . テーブル会議開催 2005.3.5

d-1. テーブル会議

南海岸通りに点在する近代建築のひとつである、旧古河鋳業ビル（昨年保存、リニューアルされた建物）で、主催・NPO 法人北九州 COSMOS クラブ、共催・九州産業考古学会で、テーブル会議を開催した。

日 時：平成 17 年 3 月 5 日（土）

場 所：古河鋳業ビル 1 階多目的ホール

参加者：約 50 名

意見発表者

NPO 法人北九州 COSMOS クラブ

若松郷土史研究会

九州産業考古学会

若松南海岸通りの歴史と景観を考える会

副 会 長 福山ミツエ

事務局長 若宮 幸一

事務局長 松田 寛

会 長 山口 久

コーディネーター

九州国際大学経済学部教授 清水憲一

司会

NPO 法人北九州 COSMOS クラブ

会員 大場由夏

1. COSMOS クラブ副会長 福山ミツエより、昨年の提案を踏まえて今年度の活動報告及び旧麻生鋳業ビルの活用提案を行なった。
2. コーディネーターを中心に意見交換がおこなわれた。
一般参加者からも多数の質問や意見が出され、熱のこもったものとなった。
「郷土の歴史を子供達に伝えていかなければならない。」共通した意見であった。
3. コーディネーターのまとめとして
 - ・ COSMOS クラブは景観法を適用して建物を保存した場合、こうなりますと素人にも分かりやすく提案して欲しい。
 - ・ 堀川・洞海湾・若松の歴史遺産を住民や子供に伝承する。
 - ・ 日本の経済威信を作った四大工業地域の歴史の中心となる資料センターが必要。
 - ・ 保存活用するため皆の知恵を寄せ集めて行かなければならない。



d-2.旧麻生鉱業ビル活用案

テーブル会議の中で、売却の話が出ている旧麻生鉱業ビルの活用法について、イメージパースによる以下の提案を行った。

- ◆ 旧麻生鉱業ビル活用案外観
～ 前面のスペースを利用したオープンカフェ～



旧麻生鉱業ビルのアールをついたファサードを生かして、前面のスペースをオープンカフェに変身させる。また、建物をそのまま見せる工夫として、大きなガラスでテラスを作る。ルーブルのガラス貼り施設を思わせる。

- ◆ 旧麻生鉱業ビル活用案内観
～ カウンターを活かしたレストラン～



旧麻生鉱業ビルの内部は、長いカウンターを活かしおしゃれなレストランやビヤホールを提案する。海を眺め、又お隣の古河鉱業のファサードを眺めながら、ちょっとしたパーティーもできるスペースに。

d -3. 若松南海岸地区案内看板

にぎわいのある街にするためのツールづくりの中のひとつとして、回遊性を持たせる、という言葉キーワードに街に統一されたデザインの案内板を提案。

看板をたどりながら歩いていけて、回遊が出来る仕掛けをする事を提案。

なお、テーブル会議の会場に展示し、参加の皆さんに見ていただき、人気投票を実施した。

以下の3案を提案し、結果は1番のプランが最も人気を得た。

若松南海岸地区案内板 プラン



< PLAN 1 >

やさしい
ポピュラー
落ち着いた
デザイン。



< PLAN 2 >

斬新、シックな色
づかい。
正方形のデザイン
が特徴。



< PLAN 3 >

シャープな
ラインを強調した
デザイン。
アクセントに丸を
入れている。

4. 活動の成果

近代建築の調査も半ばにさしかかってきた。周辺の道路整備も進み、街の様子も徐々に変わりつつある。若松南海岸通りの近代建築もいつ解体の憂き目にあうかわからないという危機感をもって調査に当たった。

我々は、今回の目的を達成するため、下記の事業を行った。

1. 上野海運ビルの調査、図面化
2. 近代建築の建物探訪ラリー、活用法の提案（マップの作成、建物案内板のデザイン）
3. 景観法勉強会
4. シンポジウムの開催

若松南海岸通りの中心的な役割を持つ古河鋳業ビルの改修工事も終わり、新しく会議場としてオープンした。一方では破損の為解体を余儀なくされた大正ビル、すでに売却の話がでている旧麻生鋳業ビル等々。我々の建物の調査、研究の重要性が益々認知されているところである。

マップを利用して行った市民参加の探訪ラリーでは、皆さんに身近なところに多くの歴史的に重要な資料が現存していることを認識してもらった。

又、その後のテーブル会議では、建物を新たな視点でとらえることができた。

それは、これらの建物が単に若松だけの問題ではなく、広く洞海湾全体の歴史の発展の一部として考えたとき、単に建築学的な意義だけでなく、産業考古学的にとらえても大変価値があるということが、パネリストのコメントから明らかにされた。

しかしながら、建物の保存活用は大変難しい問題である。

我々は、これまで一連のまちづくりの提案を行っているが、特に古河鋳業ビルと一体となった利用ができるようにしては、と考え、麻生鋳業ビルについては休憩と憩いの場、結婚式の披露宴の場としても使える「海辺のレストラン」を提案した。

現渡し場を移す話もあると聞いているので休憩所や、待合いの場所として又、街の資料館としても利用できることを期待している。

西日本新聞 3月6日 掲載



5．今後の展開

我々は、今回の事業において改めて考えたことは、テーブル会議の席でも市民の方が発言されていたが、「この街の事をもっと地元の子供たちに知らせなければならない」ということであろう。

今回建物探訪においては、時間的に子供達の参加要請を呼びかけることができなかったが、洞海湾の歴史と建物の存続の意義を広く地元の子供達に伝えていきたいと思う。

自分たちの身近なところにこんなすばらしい歴史的な資料が沢山あったのだと言うことを「みて・ふれて・かんじて」もらい、近代建築群と、そこに関わってきた人々の事をもっと知ってもらい、この街に誇りに感じてもらえるよう努力したい。

今回の事業により、若松南海岸通りの重要性を再認識し、また、若松だけの問題でなく洞海湾全体としてとらえることの重要性を確認したと思う。

今後は「景観法」の活用を検討し、地元市民の方々や、他の団体と協力し、建物の歴史的な価値を踏まえつつ景観としての存続の意義を訴え、如何に保存・活用していくかを研究していきたいと思う。

6. 活動のポイント

本活動における人材、資金調達、ネットワークや支援体制について以下に示す。

◆ 活動の人材

- ・ COSMOSクラブの会員が中心となり、活動の支援者である行政、地元まちづくり団体を含めて「まちの宝物探訪ラリー」と「テーブル会議」に参加を呼びかけた。
- ・ 今回九州産業考古学会の共催をえて、近代建物に加えて産業化遺産を含めたまちづくりを考えることが出来た。
- ・ 郷土史研究会による近代化以前の若松の歴史資料の提供はまちづくりを考える上に意義深いものがあった。
- ・ まちづくりの活動を進めるうえで、新たなまちづくり団体、個人の活動家及び地元の方々とのかかわりができた事は、我々の今後の活動にとって非常に効果的であった。

◆ 活動のための資金調達

- ・ 会員会費収入
- ・ 事業収入

◆ 活動のネットワーク・支援

- ・ 若松南海岸通りのまちづくりに取り組んでいる「若松南海岸通りの歴史と景観を考える会」「若松バンドを考える会」「若松クラスター」「郷土史研究会」「若松商店街連合会」等々。
- ・ まちづくりの活動を通じて専門家、及び行政の方々の助言・協力を得た。